

# 藤のまち未来



ホームページ

市民のみなさまへ…会派「藤のまち未来」通信

発行所

藤枝市議会

会派「藤のまち未来」

〒426-8722 藤枝市岡出山1-11-1

info@fujinomachi-mirai.jp

TEL.FAX:643-6896

発行責任者：岡村好男

編集・制作：平井 登



幸福になるまち藤枝を目指し、皆さまの声を市政に届けています！

## 令和7年度予算編成 に向けた会派提言



～令和7年度の予算常任委員会(2月定例会月議会)でも提言してまいります～

安全・安心のまちふじえだ。だれもが暮らしやすいまちふじえだ。子どもからお年寄りまで、すべての市民が夢と希望を持てるまちふじえだ。そんな豊かなまちづくりを目指し、市長(執行部)と議会は、両輪となって取り組み続けていますが、昨今の政治・経済・環境等の変化はあまりにも激しく、行政課題も一層、多様化・複雑化しています。私たち「藤のまち未来」七名の議員は、市内各地から選出された代表であり、会派結成以来、それぞれの地域で暮らし市民の皆さまの生活に寄り添いつつ、福祉の向上と、本市のさらなる発展のために努力し活動して来ています。

今回の提言は、北村市長が令和7年度の戦略方針で掲げられました、「すべての施策を市民目線で再構築し、真に求められるサービスを重点的に展開していく」を視点に考えたものであり、本市全体のバランスよい発展や環境づくりのために、地域住民の切なる声と願いが込められた提言とするべくまとめ上げました。当局には、この市民に密着した提言内容を吟味、参酌され予算編成に反映していただくよう、併せて、本市における地域格差を生じさせない、誰一人取り残さない公平公正な施策・事業展開となるよう申し添え、去る十一月二十二日、北村市長に手渡しました。



＜提言書の詳細はQRコードからお読み取りください＞

- ＜提言十六項目の骨子＞
- 選挙投票率向上のための工夫・改善を一層図りたい。
  - 藤枝市文化センターの在り方、建て替えの再考を図りたい。
  - 地域事業所と地域コミュニティの「防災協定」締結を図りたい。
  - 生活道路「時速三〇キロ運転」の法改正を見据えた取組を図りたい。
  - 重症心身障がい者の看護・医療が整った施設整備を早急に図りたい。
  - 人口減少、少子化著しい瀬戸谷小・中学校の施設一体化を図りたい。
  - 学習チャレンジ事業における受講者の増加を図りたい。
  - 放課後児童クラブの開所時間の延長を図りたい。
  - 水害予防対策と予算の拡充を図りたい。
  - 河川浚渫の定期的実施 ○調整池の設置及び拡充
  - 山間部住居地域の土砂崩れ対策 ○危険箇所早期発見と工事着手
  - 防災対策予算の拡充と優先化
  - 交通安全対策である道路区画線(白線等)の徹底した整備を図りたい。
  - 小川・島田幹線(葉梨・高洲線から焼津市堺までの延伸約八〇〇m)の接続により、南部地区の大幅な渋滞緩和を図りたい。
  - 葉梨・稲葉線の通称「花倉坂」の道路拡幅を早急に図りたい。
  - 葉梨街道の旧押切橋と境橋に歩行者・自転車専用橋の併設を図りたい。
  - 市街化調整区域への移住定住希望者のための入居期限付専用集合住宅等の建設を図りたい。
  - 農地の「地域計画」に連動した戦略的土地利用の推進を図りたい。
  - 害獣捕獲者の後方支援拠点「減容化施設」敷地内にジビエ解体施設の併設を図りたい。

「藤のまち未来」から誕生！  
衆議院議員・鈴木岳幸さん

令和6年10月3日まで、会派「藤のまち未来」所属の市議として活動させていただいておりました。今後は国会議員の重責を力に、愛するふるさと藤枝のため、市長はじめ市議会の皆さまとも連携して働いてまいります。「まっすぐ全力で！」

◆監査の一言  
増田克彦議員

監査では財務や行政運営について広く深く理解でき、大変勉強になりました。税金の使いみちが適正・適切に行なわれるよう務めてまいります。

◆副議長の一言  
平井登議員

激動する情勢に遅れないよう、また、志太榛原圏域をけん引する議会となるよう、さらなる改革の推進とレベルアップを目指していきます。

＜新人紹介＞  
寺田亜記子議員

令和6年5月27日に、藤枝市議会議員になることができました。ひとえに皆さまのお力添え、お励ましのお陰と感謝いたしております。今後は、誰もが安心して暮らせるまち藤枝を目指します。そのために、市民の皆さまと同じ目線となり、寄り添えるよう精一杯頑張ります。

地域の課題解決のための質問や未来に向けた政策提言を心がけています

# 会派議員「一般質問」ダイジェスト

※副議長・平井登、監査・増田克彦は、議会例規に従い質問はおこないません。掲載記事は議員本人の寄稿によります。



議員のもっとも大切な仕事は、本会議における「一般質問」「代表質問」の発言といっても過言ではありません。6月・9月・11月、そして、2月の4回あるこの機会を「藤のまち未来」の議員は、決して逃さず、市民の意見や願いを、市長及び執行部当局に伝え、反省を促したり適切な処置を講じさせたり、さらには、新たな政策提言も行なったりしています。

録画配信はこちら▶



会派代表(5期目)  
岡村好男議員

『高洲地区の市街化調整区域の規制緩和を！』

高岡4丁目・高柳・築地地区は、今後の成長においても土地の弾力的な運用を図る必要があることから、「土地利用誘導区域」に選定し、土地利用方針を定めていく予定である。なお、高岡地区は広域幹線道路の整備が計画され、また、人口密度の高い地区であることから、居住誘導を検討していく。

『大洲地区の子育て世帯住宅に期待を！』

大洲地区の強みは利便性の高い住環境にあり、まずはこの整備に向かって事業の展開を図る。具体的には令和8年に、同地区で老朽化に伴い廃止予定の市営住宅跡地を活用し、子育て世帯のみを対象とした賃貸住宅を設置する。低廉な家賃の住宅供給を進め、地区の子育て世帯の増加につなげていく。

『オーガニックビレッジの、さらなる推進強化を！』

本市は令和5年2月に県内初となるオーガニックビレッジ宣言を行い推進を図ってきたが、取り組みを加速するため「有機農業推進係」から「室」に格上げする。併せて市内の有機農産物の魅力とオーガニックシティの浸透を図るため共通ロゴマークを作成し、選ばれる食材を目指すとともに、産地ブランド化を進める。



(3期目)  
遠藤久仁雄議員

『市民と共に、交通事故の減少に向けて』

本年5月に、駿河台の住宅街で死亡事故が発生した。自転車に乗っていた高齢の女性が、乗用車と出会い頭に衝突したのだ。国は令和8年9月から、センターライン等のない幅員の狭い生活道路において最高速度を時速30キロメートルに規制する計画を示されたが、本市で先行実施されるよう呼びかけた。

『朝比奈第一小学校のハンセン病学習会と「山内きみ江」さんのお里帰り』

朝比奈第一小学校では、地域の俳人「村越化石」とハンセン病について学び、人権教育に繋げている。当日は、国から学芸員をお呼びし講演会を行った。また、本市出身で元ハンセン病患者である「山内きみ江」さんが、故郷へのお里帰りを強く希望され、今回実現の運びとなった。

『藤枝市の英語教育の更なる発展を願って』

本市では19名という多くのALT(外国語指導助手)を採用し、小学校3年生から中学校3年生までの全学級に、毎週1時間の訪問授業を行っている。子どもたちはネイティブの英語に触れ、自分たちと異なる文化や習慣について学ぶという、英語学習の大きな意義が示された。



(2期目)  
八木勝議員

『少子化の進行や教員の過剰労働解消などを背景に、学校の部活動は持続可能とはいえない状況にあることから『部活動地域連携・移行への課題と方向性について』、今後の方向性を含め、現状や課題を質問した。また、近年増加傾向にある『香害と化学物質過敏症について』も質問した。

市街化調整区域内の宅地付近の耕作放棄農地が増え、今後益々増加傾向にある。これには所有者の高齢化や農業の後継者不足、相続問題など、様々な要因があることから、『耕作放棄地と隣接する住居地区に対する課題について』、農地所有者と耕作放棄で迷惑している近隣住民に、行政がどこまで指導、または支援出来るのか。今後の政策について質問した。

『本市のドローン活用とその未来について』質問した。

市内にはドローン技術や機体を所有する企業や団体が多くあるメリットを活用し、市内民間事業者との災害協定締結を提案。また、災害時のドローン活用についても、迅速に活動着手できるように、柔軟で実効性のある(仮称)民間ドローン災害時活用マニュアル」を早急に策定してもらうことを強くお願いした。



(2期目)  
川島美希子議員

『災害防止対策における山林や河川の維持管理について』は、山地は自然災害に脆弱であり、持続可能な山林管理を進めるためには、地域社会全体で協力して対策を講じることが必要である。また、河川は長期的な河川整備計画や対策が必要であり、豪雨や台風が頻発化、激甚化し災害時に十分な防護効果を発揮されていない山林、河川の早急な対策を求め質問した。

来年度、児童生徒のタブレットは更新時期なので、『子ども視点をおいた学びの環境を！』について質問。故障(昨年は1568台)の予備機を300台からさらに増やし、OS選びも生徒の利便性を重視し検討する事を求めた。さらに、『二十歳の集いと敬老の日の在り方について』は、内容の充実と、それに伴う今後の予算について質問した。

『これから求められる交通課題への対応』。葉梨地区はバス停型乗合タクシーへの転換の要望書を提出したが、その可能性を質問。バス停を5か所に増やし五十海・市立総合病院線へ接続、来年10月に実現する。『誰一人取り残さない要配慮者の避難計画』は、国が福祉避難所に直接避難できる計画作成を示すことから、要配慮者の個人避難計画の早急な取組みが決まる。



(1期目)  
寺田亜記子議員

『認知症は誰もが直面する可能性のある社会課題。藤枝市の「認知症とともに生きる共創のまちづくり条例」は、従来の介護観を超え、認知症の人々と共に生きる社会の実現を目指している。介護業界だけに頼るといった認識から脱却するような広がり期待がもてる先駆的な取り組みとして高く評価できる。』

『子育て支援が進む社会において、子育て支援は重要な課題。本市の支援策は多岐にわたるが、「おむつ定期便」のような分かりやすい取り組みは、藤枝市の子育て世代に希望と安心を与える可能性を秘めており、防犯防災にも繋がると考え提案した。本市の子育て支援策の新たな展開に期待したい。』

『タウンミーティングでの声や防災視察を踏まえ、災害時の市民の不安解消に向けて質問。民間企業との防災協力協定の強化、それに伴う防災DXの推進について、本市は対策を強めているが、より地域の特性に応じた対策と、官民一体となった防災力強化の重要性を訴えた。』

『少子高齢化が進む社会において、子育て支援が重要な課題。本市の支援策は多岐にわたるが、「おむつ定期便」のような分かりやすい取り組みは、藤枝市の子育て世代に希望と安心を与える可能性を秘めており、防犯防災にも繋がると考え提案した。本市の子育て支援策の新たな展開に期待したい。』

『少子高齢化が進む社会において、子育て支援が重要な課題。本市の支援策は多岐にわたるが、「おむつ定期便」のような分かりやすい取り組みは、藤枝市の子育て世代に希望と安心を与える可能性を秘めており、防犯防災にも繋がると考え提案した。本市の子育て支援策の新たな展開に期待したい。』